

甘栗はどうして渋皮と肉とが 離れているのだろう

本年は栗が豊産であったのか、随分栗を食べる機会に恵まれたことは、栗好きの私にとっては誠に良い年であった。しかし、ゆで栗の皮をむく度に考えることは、外側の栗色をした堅い皮をむくのも、ナイフの背中が人差し指の根元を圧迫して痛くて嫌だが、それにも増して渋皮をむくのは実に面倒臭い。

先日、ある人から、栗の木の幹にエスレルを塗布すると、栗のいがが割れるようになるという話を聞いた。しかし、いがは果実が熟すればひとりでに割れて、しかも中から種子が落ちて来るし、またそのくらいよく熟したものの方がおいしい。少し早めの時には、皮製の軍手をはめて、木ねじ回しを両手に持って割れば容易に中の種子はころげ出て来る。栗の大果樹園でも経営しているならばいざ知らず、普通の人にはいがの割れる薬は餘り魅力がない。それより、渋皮と肉とを離す薬は何とか開発できないものだろうか。

甘栗、すなわち中国系、朝鮮系の栗は、自然と渋皮と肉とが離れている。何かこの間を離す、離層のようなものがあるに違いない。こう言う品種がある以上、その作用機作を研究して、これをうまく利用するならば、その目的を果たすことが出来るだろうと想像する。そんなことを研究し、そんな薬を開発しても、商売としてベイするかどうかは知らないが、栗の渋皮むきになやんでいる人は、私ひとりでもないだろうと思う。

(日本植物調節剤研究協会会長 河田 党)

目 次

(第7巻第8号)

中国の農業と除草剤(1)

(イ) はじめに	2
(ロ) 中国の農業	2
(ハ) 中国の農村と国土防衛	4
(ニ) 中国における水田除草問題	5
(ホ) 中国の主要水田雑草	7

宇都宮大学教授

竹 松 哲 夫

沖縄農業と雑草防除

1. まえがき	8
2. 沖縄農業と雑草防除の概要	8
3. 作物別雑草防除の現状と問題点	10
(1) サトウキビ	10
(2) バインアップル	12
(3) 野菜類	13
(4) 稲 作	16
(5) その他の作物	17
4. あとがき	17

沖縄県農業試験場

仲宗根 盛 雄

植調協会だより	17
---------------	----

読者の皆さんへお願い

当誌の編集がマンネリ化し、試験成績報告書的な色彩が濃くなっていることは、誠に遺憾でありますので、読者の皆さんのご意見をお伺いし、ご満足いただけるよう育ててゆきたいと存じます故、何とぞご意見をお寄せ下さるよう、お願いします。